

汁谷山仏光寺は五条坊門通にあり。「初は興正寺と号す」宗旨は親鸞上人の弘法にして、仏光寺派と称す。本堂には開山親鸞聖人自作の御影を安置す。「坐像にして長二尺余なり」阿弥陀堂本尊は立像の阿弥陀仏を安置す。「長三尺一寸八歩」慈覚大師の作なり。此本尊は後醍醐天皇の御宇に、盜賊寺内に乱入し尊像を奪ひ逃るといへども、重くして詮方なく二条河原に投棄て去ぬ。其夜より瑞光を放て帝闕を映照し百官これをあやしむ、帝光の行衛を尋させ給ふに弥陀の光明なり。勅使驚て尊像を帝に奉り宮中に安置す。其後興正寺に遷座し寺号を仏光寺と改て勅額を賜ふ、又宸筆を染られて親鸞聖人の絵詞伝を書し給ひ、専修念仏の棟梁たる繪旨を賜はる。阿弥陀堂の脇壇には聖徳太子自作の木像、法然上人自作の像を安置す。余間を存覚間といふ、本願寺第三代覚如上人の息存覚上人こゝに寓居し、六要抄四部九帖等を撰し給ふ。夫当寺の草創は親鸞聖人四十歳の時、山州山科郷東野村に建立し興正寺と号し、徒弟の上足真仏上人に附属し給ひ。其後五条西洞院九条殿下兼実公の別荘花園亭を、聖人に寄附して花園院と号し、興正寺の院号となせり。「九十四代の帝花園院の御時園を恩に改む」後醍醐帝の御宇元応元年に、当寺を以て今比叡竹中庄汁谷に移す、東は阿弥陀峰を限り西は柳原に至り。「今七条河原をいふ」南は菅谷を限り北は汁谷大路に至る。其後足利尊氏公の祈願寺として仏供田を寄附し給ふ、是より宗門繁昌し尊信の僧俗諸国に充滿し、塔頭四十八坊に及べり。然に文明年中当寺十四世の住職経豪上人、山科本願寺蓮如上人に属し、寺僧四十二坊其外国々の門徒数輩随順す、故に経豪上人の舍弟経誉上人当寺の住職とし十四世を相続す。「所在の六坊今寺内にあり」秀吉公の時大仏殿建立によりて此地に移す。